九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[03]作土の土壌構成と作物の生産性に関する研究

https://doi.org/10.15017/13245

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 3, pp.1-82, 1975-02. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

作土の土壌構成と作物の生産性に関する研究

はじめに

従来水田裏作の場合の畦立法は土質により、また地域的により種々なされるが、畦立砕土したとき作土の土壌構成によつて地温や土壌水分などに及ぼす季節的な変化との関係が、稲、麦の成育、収量に及ぼす影響について検討を行なうため、この研究を行なったのである。

この研究は 昭和３７年度文部省科学試験研究として 同一水田で実験的研究を４カ年間継続して行ない、第１．２報を昭和３９年６月と昭和４０年２月に「合理的耕うん法に関する研究報告」と題して日本農機具工業振興会から発表したが、第３報と第４報が未発表であったので、ここに取りまとめて報告するわけである。

しかして「合理的耕うん法に関する研究」は余りにも研究テーマが大きく、研究方向の意義づけが難しいように考えられ、実験に取り組んだのが水田を整地するにあたり、起された作土の土塊が、整地機具によつてかなり異なってくる。これは起された土壌の土塊構成が違うことによつて作物の生産性に影響することが考えられる。

したがつて、この実験は作土の耕起土塊構成と作物の生産性との関係的研究が主体をなすので 合理的耕うん法に関する研究課題より「作土の土壌構成が作物の生産性に及ぼす研究」にかえた方が理解しやすいので、ここであえて研究課題を変えて報告した次第である。